

097  
うぐがキ帳

0204 4000A

「すりつぶすわよ」  
「ほ…ほひひひひ！」

(あの時は文字通り肝を冷やしたわ…)…  
俺の人生最大のピンチと  
いってもいい場面  
だったけどね…

俺のヘッド…アブスが  
このティファちゃんを捕えて  
くれたもんね…  
エアリスちゃんとクラウドとか  
いう可愛い男は逃げちゃったけど…  
アイツら神羅に追われているから  
ここには簡単に戻れない…

(今のうちにティファちゃんを俺好みのスケベなメス豚に変えちゃうのよね)…  
この魔晄…  
魔晄中毒者が別人格を自分の中に作り上げてしまう症状を利用して…

(俺を愛する俺好みの人格に作り変えられちゃうように改良したのよね)…  
…あのクラウド大好きな強気なティファちゃんも一か月もこの魔晄漬けにすれば…)





「コルネオ様♡  
お待ちしていました♡」

「この三か月…コルネオ様のおチンポ妄想でオナニしていたメスフタに…遅いおチンポご奉仕やせこくたやあい♡」

(ホし♡俺にぞつこんのメス豚の出来上がり♡)

「ほひっ！いいのっ、かわいいのっ♡  
しまった筋肉があった体も俺好みの脂肪つまったデブ体型…揉み心地も最高♡  
んっ♡♡」  
「あひいん♡ダメ♡コルネオさまあ♡  
イツちやうっ♡♡コルネオさまにご奉仕する前にひい♡んひい♡  
チンパコしてほしくなっちゃいます♡」  
「そうだの、お楽しみは取っておかないと♡」





「んじゆるる♡んぶつ♡んぶら〜ん♡  
いかがでひゆか♡コルネオひやまあ♡」  
「ほひら〜、それ以上やったらティファちゃんに  
出ち子種が…ほひいい♡」

「んぶら♡でもコルネオ様の金玉の臭い嗅いでると  
舌とまらなひのお♡コルネオさまあ♡愛してますう♡」  
「フヒ、クラウド君には見せられないねえ♡この姿は」  
「く…くらう…ど…？…そう…だ…わたし…」  
「クラウド達と…私クラウドを…好…」  
ズブウウー！！

「んじゆるる♡」

「ひぎああああ！！！！」  
「危なかつた…まさか人格戻るなんて…  
慌てて原液さしちやっただけ…」  
「ティファちゃんなら大丈夫だよわ」  
「あが☆んがあ…あぶ…」



「—— 一か月後  
「コルネオ!  
貴様がティファを監禁しているのは  
調査済みだ…さあ!  
死にたくなければティファを返せ!!」



「ほひっ、怖い  
助けて…もし  
アイツを倒したら  
結婚して  
子作りして  
あげるよ♡」  
「ほ…本当ですか?  
ああ…♡  
考えただけで  
マン汁溢れるっ♡」



「コルネオ様と結婚…子作り…  
うひひっ…ヤバあ…♡  
軽イキ止まらない♡」

「てい…ティファ? なのか??  
その格好…体…は……」





「アナタ：誰？名前は同じみみたいだけど人違いよ  
私は蜜蜂の館でコルネオ様専属のゲームン便器  
…トスケベなこととしていつぱいシて  
コルネオ様の子供産みまぐるのが夢の  
変態メス豚のティファよ！」

「ほひー！そういう訳だから…  
諦めて貰えるかね？元カレのクラウド君  
「何言ってるんですか？私はずっと  
コルネオ様ラブ♡二筋ですう♡  
命もオマンコも捧げますう♡♡  
「ほひ…そうだったね…うんうん♡」

「てい…ティファ…嘘だろ…」  
「さよなら…」  
「勘違い男の金髪君」  
「ポコポコッ！ポコオ！！」





